

## 平成 30 年度

### 開館20周年記念イベント

当館では、開館 20 周年を迎えた平成 30 年度(2018 年度)、年間を通じて様々な記念イベントを実施した。



#### 「開館 20 周年記念式典・内覧会」

【日時】 4 月 19 日(木) 記念式典 14:00～14:30  
内覧会 14:30～16:30

【参加者数】 85 人

#### 「開館 20 周年記念・無料開館」

【日時】 4 月 20 日(金) 9:00～17:00

【参加者数】 330 人



#### 開館 20 周年記念講演会

##### 「最後の絵師・鏗木清方 一追憶の江戸・回想の明治」

【日時】 4 月 23 日(月) 14:30～16:00

【講師】 山下裕二氏(明治学院大学教授)

【参加者数】 55 人



#### 開館 20 周年記念イベント

##### 「美術館で落語会～圓朝と清方～」

【日時】 6 月 5 日(火) 14:00～16:00

【出演】 八代目春風亭柳橋

【参加者数】 61 人



#### 開館 20 周年記念イベント

##### 「教えて！清方の日本舞踊の世界」

【日時】 6 月 16 日(土)、11 月 23 日(金・祝)  
13:30～14:00

【講師】 中千尋(花柳中太郎)氏(日本画家・花柳流師範)

【参加者数】 172 人



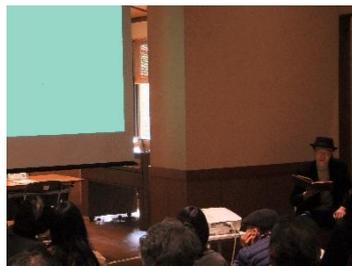
#### 開館 20 周年記念イベント

##### 「朗読と作品鑑賞で楽しむ泉鏡花と清方」

【日時】 10 月 27 日(土)、11 月 10 日(土)、24 日(土)  
13:30～14:10

【出演】 奈佐健臣氏(俳優)

【参加者数】 106 人



## 特別展「開館20周年記念 鏗木清方の芸術展」

清方は、市井の人々が連綿と受けついできた文化や暮らしに常に心を寄せ、制作を重ねた。美人画・風俗画・物語絵・肖像画など、その多彩で品格ある表現は、清方芸術の大きな魅力となっている。開館 20 周年を迎えたことを記念した本展覧会では、清方の幅広い画業を紹介し、清方が市井の生活や文化に見出した清方の美の軌跡を辿った。

会期 平成 30 年 4 月 20 日(金)～5 月 23 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,556 人(一日平均:115 人)

### 関連事業

「開館 20 周年記念・無料開館」【日時】4 月 20 日(金)9:00～17:00

「美術講演会 最後の絵師・鏗木清方-追憶の江戸・回想の明治」

【日時】4 月 23 日(月)14:30～16:00 【講師】山下裕二氏(明治学院大学 教授)

「市民講座」【開催期間】4 月 24 日(火)～4 月 28 日(土) 13:00～14:00

「日本画制作実演」【日時】5 月 5 日(土・祝)、6 日(日) 【講師】松岡美樹子氏(日本画家)

「岩絵具を使って日本画を描こう！」【日時】5 月 19 日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】4 月 7 日(土)～12 月 16 日(日)



### 関連記事

「鏗木清方美術館 20 周年の特別展」(朝日新聞 地方面 4 月 20 日)

他 18 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
山紅葉 天明風俗	昭和 11 年(1936)	絹本着色・軸	56.9×72.6	個人蔵
銀刺繍翠紗	昭和 21 年(1946)頃	絹本着色・軸		同上
高尾さんげ	昭和 19 年(1944)	絹本着色・軸	128.5×42.6	同上
繪團扇	昭和 4 年(1929)	絹本着色・軸	129.5×41.5	同上
墨江燈影流 天明風	昭和 33 年(1958)	絹本着色・軸	95.0×56.3	木原文庫蔵
すみた土産 春の七草	昭和 29 年(1954)頃	絹本着色・軸	116.0×37.0	同上

### 【所蔵品】

「朝涼」「山百合」「朝夕安居(夕)」「朝夕安居 詞書」「慶喜恭順」「春の人」「砧」「風景(池)」「早見の藤太」「白梅」(昭和)

模写 喜多川歌麿「當世踊子揃」の内「鷺娘」「三番叟」「道成寺」

下絵 「曲亭馬琴」「日高川 道成寺」「築地川春雨」「湖のほとり」(清方美人画譜のうち)「霽れゆく村雨」(小下絵)「墨江燈影流 天明風」(小下絵)

スケッチ 「朝涼のためのスケッチ」(2 点)「妓女像」(2 点)「曲亭馬琴」山川秀峰・画「清方《妓女像》写生風景」「朝顔」「由比ヶ浜」「江の島」水野年方・作「清方像 写生(清方題)」

資料 「仙臺紀行 上」「岩船山」「岩船山石段」(「写生 たび日記の内)」「田沼 唐沢山新道」(「武さし上下野旅日記の内)」「五大堂の雨」(「写生帖 松島の巻」の内)

挿絵原画 「採菊散人」「大蘇芳年」「自画像」「讀賣編集」(「こしかたの記」『中央公論』)

『画集 東京と大阪』(築地川のうち) 「明石町」「伊達家水門」「築地橋」「作者」

『文藝俱樂部』口絵 「爪紅」「白魚」「そぞろあるき」「よき事さく」「小春」「汐干狩」

『清方美人畫譜』 「幕間」 『今様 夏の巻』口絵 「五月雨」

『講談雑誌』口絵 「菖蒲湯」 『文藝界』口絵 「浴後」

『演藝俱樂部』口絵 「三ツ股川の高尾」「茶屋の二階」 菊地幽芳著作口絵 『月魄 藤乃の巻』

『淑女畫報』口絵 「春の人」

その他 柳川春葉著/鏗木清方画「子守歌」(『報知新聞』)版木

「文化勲章」「文化勲章 賞状」「扇子に橘 風呂敷」

## 特別展 「鏗木清方生誕 140 年記念 清らかに、うるわしく —清方の美人画—

近代を代表する美人画家として知られる清方だが、日本画壇で活躍し始めた大正期は「美人画家」という枠にはめられることに抵抗を感じていた。しかし、太平洋戦争時に戦意昂揚のための制作が求められた中、心から描きたいと望んだのは、清らかで美しい、平和を象徴するような美人画だった。清方は、江戸から明治の女性の姿、しぐさ、装いの中に自らの求める美を見出し、生涯をとおし美人画を描き続けた。本展覧会では、その生誕 140 年を記念し、清方芸術の粋を集めた美人画を中心に紹介した。

会期 平成 30 年 5 月 26 日(土)～7 月 1 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,865 人(一日平均:125 人)



### 関連事業

「日本画材を使って、団扇に絵を描こう！」【日時】6 月 17 日(日) ①13:00～14:30②15:00～16:30

「鎌倉の紫陽花と美術館を巡ろう」【日時】6 月 16 日(土)、23 日(土)、28 日(木)、30 日(土)10:20～12:00

開館 20 周年記念イベント「美術館で落語会～圓朝と清方～」

【日時】6 月 5 日(火)14:00～16:00 【出演】八代目春風亭柳橋氏

開館 20 周年記念日本舞踊イベント「教えて！清方の日本舞踊の世界」

【日時】6 月 16 日(土)13:30～14:00 【講師】中千尋(花柳中太郎)氏(日本画家・花柳流師範)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】4 月 7 日(土)～12 月 16 日(日)

### 関連記事

KATEIGAHO INTERNATIONAL Japan EDITION (「家庭画報」国際版) Web サイト 他 15 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
花の雨	大正 7 年(1918)頃	絹本着色・軸	138.3×50.5	個人蔵
琵琶島 金沢三題のうち	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	68.4×86.5	同上
山かげ 金沢三題のうち	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	68.4×86.5	同上
瀬戸の夕 金沢三題のうち	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	68.4×86.5	同上
大磯の風景	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	68.4×86.5	同上
紙きぬた	大正 9 年(1920)頃	絹本着色・軸	126.0×41.5	同上
夕映するもみち葉	昭和 26 年(1951)	絹本着色・軸	57.0×71.5	同上

### 【所蔵品】

「ためさるゝ日(右幅)」「清流」「あじさい」「ゆかた」「柳の下に涼む娘」「笠の曲(娘道成寺)」

下絵 「卯月の宵」「紫陽花の谷」「明治の女」「初雁の御歌」(小下絵)

模写 勝川春章「婦女風俗十二ヶ月図」のうち「四月 杜鵑」「七月 七夕」狩野長信「花下遊楽図屏風」

スケッチ 「傘を持つ女」「あじさい」「花菖蒲」「あやとり」「少女横臥像」「舞妓」「芸妓」「日光の山百合」(2 点)「女性像」(4 点)

『にごりえ 画譜』 「第 2 図」

『清方美人畫譜』 「表紙」「春雨の寮」「五月雨」「午後の海」「島田くづし」「濱町河岸の秋」「白壁」

『新小説』口絵 「空虚」 『婦人世界』口絵 「植物園の池」「春霞巾を着けた女」「星多き夜」

『婦人倶楽部』附録 「鳴沢宮の像」 『文藝倶楽部』口絵 「梅雨晴」「ゆふ暮」「ひともし頃」「湯治場」

『演藝畫報』附録 「對牛桜の旦開野」 『講談雜誌』口絵 「盆提灯(清方畫譜の七)」

『新演藝』口絵 「芝居美人畫譜六 つや物語の丁山」「箕輪心中の綾衣(芝居十二月月の内)」

『苦楽』表紙 「道成寺」「たけくらべの美登利」「高野聖」 『苦楽』名作絵物語 「金色夜叉」

小説単行本口絵 村井弦斎・著『日の出島朝日の巻(下巻)』小杉天外・著『落花帖(下巻)』江見水蔭・著『花』  
菊池幽芳・著『お夏文代(前編)』『賣花娘』筆子 初枝の巻』小栗風葉・著『麗子夫人(前編)』  
『横恋慕』(篠崎嶺葉合著) 泉鏡花・著『婦系図(後編)』(鯨崎英朋合作) 稲岡奴之助・著『女可恐(後編)』  
松居松葉・著『一夜畫工』鈴木敏也・著『たけくらべ評釈』『たけくらべ』(「現代名作集」)(口絵原画)

その他 団扇「江のあじさい」 テーブルセンター「あじさい」

## 企画展「清方の旅 一涼を求めて金沢八景へ」

江戸時代、現在の横浜市金沢区海沿いは、「金沢八景」と呼ばれ、史跡や自然に恵まれた風光明媚な地として、人々に親しまれていた。清方は、子どもの頃から版画や本で金沢の美しい風景に魅了され、憧れを抱いていた。大正7年、40歳のときに金沢へ旅行し、それが縁となり2年後に別荘を構えた。そして、当地へ度々家族と出かけ、釣りや海水浴、山路の散策などを楽しんだ。本展覧会では、別荘に滞在した時に描いた絵日記の作品ほか、金沢の自然や夏の風物に取材した作品を紹介した。

会期 平成30年8月1日(水)～8月26日(日) (開館日数:23日)

総入館者数 1,736人(一日平均:75人)



### 関連事業

子ども参加プログラム

「墨を使って日本画のスケッチを体験しよう」【日時】8月2日(木)、21日(火)、22日(水) 9:30～11:30

「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」【日時】8月3日(金)、23日(木) 9:30～11:30

「夏休み親子鑑賞」【開催期間】8月1日(水)～8月26日(日)

親子ワークショップ「親子で美術館へ行ってみよう！美術館で絵画鑑賞と日本画入門経験！」

【日時】8月1日(水) 9:30～11:30

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】4月7日(土)～12月16日(日)

### 関連記事

「企画展 清方の旅 一涼を求めて金沢八景へ」(広報かまくら 8月1日)

「和風の美術館で美しい日本画を。」(鎌倉INFO 8月1日) 他12件

### 出品作品

「清子四歳像」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「夏の思い出」「水汲」「新大橋之景」「絵燈籠(書・初代中村吉右衛門 画・鈴木清方)」「砂浜少女」「春の立場茶屋(金沢春景)」「金沢絵日記」「夕立雲」「ほづき」「干物」「夏の生活」「龍膽」「ゆあみ」「君々寄漫筆」「游心庵漫筆」「金沢絵日記 五」「絵日記(里から町へ)」「絵日記(東京湾)」「手賀沼(当館寄託)

下絵 「のれん(夏姿)」「筆捨松」「蟹と童」「汐路のゆきかひ」「夏の女客」

スケッチ 「蓮」「トロアオイ・朝顔・露草」「あざみ」「向日葵」「竜胆」「游心庵の井戸」「大磯の海」「凌雲花」

「蛙・茄子」「朝顔」「白粉花」「お化け」「苦瓜とトウモロコシ」「撫子」

『文藝倶楽部』口絵 「蚊遣の煙」「いで湯の夕べ」「涼風」(下絵・完成品)「鸚鵡」(下絵・校合摺・差上げ・完成品)

『講談雑誌』口絵 「恋の湊(清方畫譜の八)」

『少女界』口絵 「海水浴」

『新小説』口絵 「打ち寄せる波」(下絵)

『文藝界』関連 「夕涼み」(口絵)「縁日」(表紙絵)

渡邊霞亭著作口絵 『新渦巻 光子の巻』

柳川春葉著作口絵 『女一代』

大沢天仙著作関連 『善道邪道』(口絵・表紙絵)

村上浪六著作関連 『金剛盤(後編)』(口絵・表紙絵)

田村松魚著作表紙絵 『若旦那』

江見水蔭著作表紙絵 『海底の宝庫』

その他口絵 「玉づき」「とんぼつり」「しほかぜ」「彩色」

うちわ 「美人・のれん」「朝顔」「岩菲」(団扇・袋)

その他 「紫陽花」(浴衣地)「朝顔」(風呂敷)

書籍 『江戸名所図会』『草筆画譜』

## 企画展 色づく秋、色めく秋 —清方の美

四季折々の風情を、市井の人々の営みや、美しい女性の姿とともに描いた清方。つくつく法師や蟋蟀の声、澄んだ空を飛ぶ千切れ雲などに秋の訪れを感じ、秋が深まれば、木犀や菊のほのかな香りを楽しみ、火鉢に手をかざして読書に親しむ夜を過ごした。季節へのこまやかな感覚、作品に込められた豊かな詩情と彩りは、清方作品の特徴のひとつとなっている。本展覧会では、江戸郊外へ出かける姉妹を秋の草花とともに描いた《桜もみぢ》や、虫の声に耳を傾ける女性を描いた《虫の音》など、秋の情緒あふれる作品を紹介した。

会期 平成 30 年 9 月 1 日(土)～10 月 17 日(水)(開館日数:40 日)

総入館者数 2,787 人(一日平均:70 人)



### 関連事業

「扇形の画面に日本画を描こう！」【日時】9 月 15 日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「日本画制作実演」

【日時】10 月 6 日(土)・7 日(日) 13:30～15:00 【講師】長谷川幾与氏(日本画家)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】4 月 7 日(土)～12 月 16 日(日)

### 関連記事

「Museum Navi 色づく秋、色めく秋 —清方の美」(神奈川新聞 9 月 21 日)

「企画展 色づく秋、色めく秋 —清方の美 開催」(毎日新聞 9 月 1 日) 他 16 件

### 出品作品

「暮れゆく沼」「桜もみぢ」「孤児院」「虫の音」「狐狐狸」「雑司ヶ谷会式」「芸妓」「菊蕊童」「曲亭馬琴」

下絵 「霜葉<桜の霜葉(画集)>」「たけくらべ(霜の朝)」「たけくらべの美登利」「瀧野川観楓」

「船の女」(初公開)「帯」

スケッチ 「菊・草花」「桜と鶯の紅葉」「銭洗弁天」「スケッチ」「御殿場でのスケッチ」(2 点)「箱根でのスケッチ」

「隅田川の船」「残柿」「大宮でのスケッチ」「あけび」「柘榴」

『清方美人画譜』 「濱町河岸の秋」 『新小説』口絵 「祝ひ月(東京風俗)」

『文藝倶楽部』口絵 「こすもす」「八幡鐘」「夜長」「あさ露」 『演藝倶楽部』口絵 「茶屋の二階」

『少年界』口絵 「秋の山」 『少女界』口絵 「観菊」

『講談雑誌』口絵 「秋のおとづれ」「九月の海(清方画譜の九)」「旅愁(清方画譜の十)」

田口掬汀著作口絵 『情の人』『黒風(後編)』(下絵 2 点・完成品)

稲岡奴之介著作口絵 『姉の仇』『痣(前編)』

渡邊霞亭(春風楼主人) 著作口絵 『勝鬨(中編)』『不破数右衛門(前編)』

広津柳浪著作口絵 『仇と仇(前編)』

菊池幽芳著作口絵 『宝庫探検秘中の秘(前・後編)』

松本亀松著作口絵 『藤間政弥』

小栗風葉著作関連 『戀学生』(口絵・表紙絵)

江見水蔭著作関連 『二人女王』(口絵・表紙絵)

坪内逍遙著作口絵 「お夏狂乱」(『新曲金毛狐』)

その他口絵 「栗むく女」「秋の旅」「秋ばれ」

書籍(装丁) 鏡木清方著『築地川』(帙・表紙装丁) 谷崎潤一郎著『少年』(扉・挿絵) 市川三升著『九世団十郎を語る』(表紙装丁) 利倉幸一編『三津五郎舞踊藝話』(表紙装丁) 小竹無二雄著『菱の実』(装丁) 『尾崎紅葉全集』(表紙装丁)

## 特別展 「泉鏡花生誕 145 年記念 清方描く、鏡花の世界」

明治 20 年代末、10 代の清方は泉鏡花の文学に魅了され、鏡花の小説へ挿絵を描く事を目標に研鑽を積んでいた。明治 35 年(1902)、清方 24 歳、鏡花 29 歳の時に、鏡花の単行本『三枚續』の表紙装丁や口絵などを清方が手がけた事から二人の交流は始まった。以後、装丁や口絵を制作し、「鏡花作、清方ゑがく」と称された美術的にも価値のある本を世に送り出し、清方が日本画家として活躍するようになってからも親交は続いた。本特別展では、鏡花生誕 145 年を記念し、清方が鏡花の著書に描いた口絵のほか、鏡花文学に取材した名品を中心に紹介した。



会期 平成 30 年 10 月 20 日(土)～11 月 25 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,174 人(一日平均:102 人)

### 関連事業

美術講演会 「泉鏡花と鏑木清方 —『深沙大王』を中心に—」【日時】11 月 6 日(火)13:30～15:30

【講師】植田理子氏(青山学院大学非常勤講師)

「日本画の隈取りの技法で墨絵を描こう！」【日時】10 月 20 日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「胡粉を使って、日本画を描いてみよう！」【日時】11 月 17 日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

開館 20 周年記念イベント「朗読と作品鑑賞で楽しむ泉鏡花と清方」

【日時】10 月 27 日(土)、11 月 10 日(土)、11 月 24 日(土)13:30～14:10 【出演】奈佐健臣氏(俳優)

開館 20 周年イベント「教えて！清方の日本舞踊の世界」

【日時】11 月 23 日(金・祝)13:30～14:10 【講師】中千尋(花柳中太郎)氏(日本画家・花柳流師範)

「ミュージアムからミュージアムへ 鎌倉美活ウォーク」川喜多映画記念館・北鎌倉 葉祥明美術館と連携し、相互割引と絵はがきプレゼントを実施 【開催期間】10 月 20 日(土)～12 月 9 日(日)

「ヨガインストラクターと歩く鎌倉美活ウォーク」【日時】11 月 11 日(日)13:30～16:00【講師】鶴見泉氏(ヨガインストラクター)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】4 月 7 日(土)～12 月 16 日(日)

### 関連記事

「芸術さんぽ 画業と創作の場 後世に」(毎日新聞 ぐるっと首都圏 10 月 26 日)

その他 14 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
『苦楽』表紙絵原画	昭和 22 年(1947)～ 昭和 24 年(1949)	絹本着色・画帖	(各)29.7×27.4	個人蔵
日本橋『苦楽』 「名作絵物語」挿絵原画	昭和 23 年(1948)	紙本着色・折帖	(各)27.6×21.4	個人蔵
遊女	大正 7 年(1918)	絹本着色・屏風 (二曲一隻)	161.0×169.6	横浜美術館蔵
水藝	昭和 6 年(1931)	絹本着色・額	105.0×42.5	個人蔵

### 【所蔵品】

「一葉女史の墓」「註文帖」「秋宵」「深沙大王」「栗をむく娘」「「ほゞづき」「ふたつあちさる」

下絵 「築地明石町」「高野聖(今様絵詞の会)」「小説家と挿絵画家」「妓女像」(未定稿)

泉鏡花著作関連 『三枚續』口絵(下絵・完成品)、表紙絵、袋装丁 『風流線』口絵(下絵・校合摺・差上げ(2 点)・完成品)表紙絵、袋装丁 『無憂樹』口絵(下絵・完成品) 『神鑿』口絵(差上げ・完成品) 『田毎 かゞみ』口絵(校合摺・完成品) 『式部小路』口絵(差上げ・完成品) 『婦系図(後編)』口絵(校合摺・完成品) 『婦系図』(日本近世大悲劇名作全集)口絵 『薄紅梅』口絵(下絵・完成品) 『高野聖』『現代名作集 別巻』口絵(原画)

泉鏡花著作『新小説』口絵 「瓔珞品」(校正摺)「胡蝶之曲」「紅雪録」「舞の袖」「色暦」(校合摺・完成品)

泉鏡花著作『文藝倶楽部』挿絵 「深沙大王」(挿絵 2、3) (校正摺)

書籍(装幀) 『三枚續』(清方旧蔵)『昭和新集』(箱・表紙装丁)『鏡花選集』(箱・表紙装丁)

『鏡花全集』(表紙・表紙裏・扉装丁)

その他 「泉鏡花肖像写真」「月こうさぎ」(鏡花遺品 帯締)

## 企画展「水野年方没後 110 年 清方、紡がれる美の系譜 一師から弟子へ」

清方は明治24年、13歳で日本画家・水野年方に入門し、修業に励んだ。そして、16歳で挿絵画家となり、後に師と同じく日本画家として活躍した。年方に尊敬の念を抱いていた清方は、師のもとで学んだ技術や制作への姿勢を弟子たちへ伝えた。そして、彼らが存分に筆を揮い、発表する場として展覧会「郷土会」を設け、後進の育成に努め、優れた画家を日本画壇に輩出した。本展覧会では、清方作品のほか、年方に関連した作品や、弟子たちが清方に贈った寄書などを展示し、年方から清方、そしてその弟子たちへとつながる美の系譜をたどった。

会期 平成30年12月1日(土)～平成31年1月14日(月・祝) (開館日数:35日)

総入館者数 2,573人(一日平均:74人)



### 関連事業

「ミュージアムからミュージアムへ 鎌倉美活ウォーク」

川喜多映画記念館・北鎌倉 葉祥明美術館と連携し、相互割引と絵はがきプレゼントを実施

【開催期間】10月20日(土)～12月9日(日)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】4月7日(土)～12月16日(日)

「新春福引き」【開催期間】1月4日(金)～14日(月・祝)

「日本画の美術館を巡ろう! 鏑木清方と山口蓬春」 山口蓬春記念館と連携し、相互割引を実施

【開催期間】平成30年12月1日(土)～平成31年2月24日(日)

【トークイベント】

「蓬春と清方と五十八」【日時】1月5日(土)13:30～14:00 【会場】鎌倉市鏑木清方記念美術館

「大正期の画壇と清方と蓬春」【日時】1月13日(日)13:30～14:00 【会場】山口蓬春記念館

### 関連記事

「水野年方没後 110 年 清方、紡がれる美の系譜 一師から弟子へ」(地域創造レター 12月号) 他 19件

### 出品作品

- 「雪空」「舞妓」「先師の面影」「歳旦」「松のうち」「大蘇芳年」「小楠公弁の内侍を救う」「二人静」「早見の藤太」「白梅」(昭和45年)「道成寺(肉筆回覧誌『研究畫林 巻之壹』の内)」「博多女郎波枕(肉筆回覧誌『紫紅』の内)」
- 下絵・スケッチ 「初冬の花」(下絵)「自画像/水野年方夫妻」「大川雪景色」「大蘇芳年の墓」「露」「初日の出」  
「御殿場からの富士」「唐の芋」「初冬の花のためのスケッチ」「唐の芋」「橙」
- カレンダー 「風俗美人画(一) 松の内 朝日カレンダー」「カレンダー 中井製紙工業株式会社」
- 『文藝俱樂部』附録 「松の内」(鏑崎英朋合作)「時代美人風俗雙六」「新案雙六當世二筋道」
- 『講談雑誌』口絵 「初夢(清方畫譜の一)」 『少女界』口絵 「クリスマス」「爐邊の少女談話會」
- 『文藝俱樂部』口絵 「春を待つ」「餅むしろ」 『少年界』口絵 「昔と今の学生」
- 『少女界』附録 「歴史雙六」(宮川春汀合作) 『文藝界』口絵 「都大路」
- 『女學世界』口絵 「紅梅」 『大正婦人』口絵 「初東風」
- 『婦人世界』口絵 「元日の朝」 菊池幽芳著作口絵 『小ゆき(前編)』
- 小杉天外著作口絵 『魔風恋風(中編)』 稲岡奴之助著作口絵 『三人書生』
- 村上浪六著作口絵 『当世五人男のうち川上三吉(後編)』
- その他口絵 「初雪」「年始まわり」「貴婦人の一日」「楽しき贈り物」「雪積む宵(名畫十二ヶ月その二)」
- 水野年方関連 「橘逸勢女 日野阿新」「清方写生」「歴代女装壽語録」(『女學世界』附録) 村上浪六著『当世五人男のうち 倉橋幸蔵(続編)』(口絵)『浮世草紙』(口絵)『志なさだめ』(口絵)
- 清方門下作品 「五星連珠」(弟子の寄書)
- 伊東深水関連 「清方先生寿像」(下絵)「伊東深水・筆 羽子板」
- 押絵羽子板 「春の夜のうらみ」「ためさるゝ日(左幅)」
- 風呂敷 「扇子に藤・松と梅」「扇面に松と飴や」「凧と梅」
- その他 「宝珠」「清方意匠年賀状」

## 企画展 「佳人をゑがく ―清方の美人画を中心に―」

美人画は、世界に類を見ない日本特有の絵画であり、清方は江戸そして東京の女性美を描いたことで広く知られている。若い頃、挿絵画家を目指して師である水野年方や、尊敬する武内桂舟の美人画を勉強し、後に日本画家を志してからは近世以降の美人画の変遷を時代風俗とともに研究した。清方は美に対する憧れの心を題材に投影し、さらに美人研究の成果を結実させ、江戸の香り高い粋と品格、そして季節の美しい風情に満ちあふれた数々の名作を描いた。本展覧会では、市井の女性や文学作品に登場する女性に取材した清方の美人画作品を中心に紹介した。

会期 平成 31 年 1 月 19 日(木)～2 月 24 日(日) (開館日数:32 日)

総入館者数 1,909 人(一日平均:60 人)

### 関連事業

「日本画の美術館を巡ろう! 鏗木清方と山口蓬春」山口蓬春記念館と連携し、相互割引を実施  
【開催期間】平成 30 年 12 月 1 日(土)～平成 31 年 2 月 24 日(日)

### 関連記事

「企画展 佳人をゑがく ―清方の美人画を中心に―」(広報かまくら 2 月 1 日)  
「企画展 佳人をゑがく ―清方の美人画を中心に―」(鎌倉みどころ散歩 2 月 1 日)  
「かながわ美の手帖 ファッションナブル「卓上芸術」の極み」(産経新聞 地方面 2 月 10 日)  
「ART 鎌倉市鏗木清方記念美術館 佳人をゑがく―清方の美人画を中心に―」(花 SaKU 2 月号) 他 13 件

### 出品作品

「カルメン」「早春」「金色夜叉の絵看板」「梅蘭芳 天女散華」「浅みどり」「姉様人形」(初公開)「崔承喜 一、二」「桜乙女」「教誨」「襟おしろい」「にぎりえ」「秋草」(当館寄託)  
下絵 「春雪」「雪旦」「大川端」「たけくらべの美登利」「崔承喜(全身)」「麗人影像 二、三(今様絵詞の会)」  
スケッチ 「崔承喜スケッチ」(2 点)「市川松蔦 芝居のお七」  
『文藝倶楽部』口絵 「小春」「伽羅」「紅さす女」「白鳥」  
『講談雑誌』口絵 「炬燵(清方畫譜の十二)」  
『新小説』口絵 「瑞香(百花百姿)」「虎の門 見立十二姿の内」  
『国民新聞』附録 「春装」  
『新演藝』口絵 「濡衣(芝居十二ヶ月の内)」「箕輪心中の綾衣(芝居十二ヶ月の内)」  
『演藝倶楽部』口絵 「三ツ股川の高尾」「茶屋の二階」  
『淑女畫報』口絵 「春の人」  
菊池幽芳著作口絵 『小ゆき』『百合子 後編』  
さわらび女史著作口絵 『あしわけ舟』  
その他口絵 「お蝶夫人」(下絵・完成品)  
武内桂舟・画『文藝倶楽部』口絵 「わか水」「鳥追ひ」「東天紅」  
水野年方・画『文藝倶楽部』口絵 「無題」(3 点)  
梶田半古・画『文藝倶楽部』口絵 「懸想文」  
梶田半古・画『新小説』口絵 「下士官」「泊客」  
書籍 鏗木清方編『現代作家美人画全集 日本画篇 下巻』  
その他 「三菱銀行」(絵はがき) (下絵 2 点・完成品) 「築地明石町」(版画・切手)



## 企画展「ゑがき、ゑがく 清方 —その優美な絵の世界—

16歳で挿絵画家となった清方は、新聞の挿絵や、単行本、雑誌の口絵など数々の仕事を手がけていく中で着実に力をつけ、20代半ばには人気挿絵画家として認められるようになった。その一方で、肉筆画研究を目的に日本画家を目指す仲間と団体「烏合会」を結成する。後に日本画家に転身してからは、浮世絵や南画の研究に取り組み、自身の表現を模索した。清方の江戸情緒あふれる優美な美人画や市井の人々の暮らしを描いた作品は、大正そして昭和の日本画壇で高く評価された。そして、さらなる創造を追い求めた清方は、肖像画にも創作の幅を広げていった。

本展覧会では、挿絵画家時代の清方の画業を中心に紹介した。



会期 平成31年3月2日(土)～4月14日(日) (開館日数:38日)

総入館者数 2,855人(一日平均:75人)

### 関連事業

「春休み親子鑑賞」期間中、小・中学生と同伴者は観覧料無料

【開催期間】3月24日(日)～4月3日(水)

### 関連記事

「企画展 ゑがき、ゑがく 清方 —その優美な絵の世界—」(広報かまくら 3月1日)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 優美な日本画を鑑賞し庭を眺める贅沢な時間」(横浜ウォーカー 3月号)

「企画展「ゑがき、ゑがく 清方 —その優美な絵の世界—」開催」(毎日新聞 3月2日)

「企画展 ゑがき、ゑがく 清方 その優美な絵の世界」(子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」) 他 12件

### 出品作品

「寒月」「嫁ぐ人」「しだれ桜」「道成寺」「雨華庵風流」「先代萩 一、二」「道行浮舟鷗」「落葉焚く」「築地明石町の船・詞」

「大和路の或る家」「鱈」「女役者糸八」「寺子屋画帖」「春色嬋妍之図(肉筆回覧誌『美術くらべ満記乃三』の内)」

「古代雛之図(肉筆回覧誌『美術くら遍 一』の内)」

下絵 「寒月」「紅雨荘」「江戸十五題の一 八幡鐘」「女役者糸八」「霽れゆく村雨」(小下絵)

「妓女像(右幅)」(未定稿)

スケッチ 「志濱の筍」「椿」「水禽」「木蓮」「桜」「紅雨荘のためのスケッチ」(2点)「由比ヶ浜」(2点)「メバル」

「蕨」

『文藝倶楽部』口絵 「花吹雪」「鸚鵡」「緋桃」「白魚」「都鳥」

『講談雑誌』口絵 「光のどけき(清方畫譜の四)」

『少女界』口絵 「花の蔭」

『九州日報』附録 「醍醐の花見」(下絵・完成品)

『苦楽』表紙絵 「弥生」(下絵・完成品)「草枕」(下絵・完成品)

岡鬼太郎著作口絵 『二筋道:花柳巷談』(下絵・校合摺・完成品)

松居松葉著作口絵 『玄雪姫(前編)』(校合摺・差上げ・完成品)

『東京と大阪』東京 築地川 「目録」「伊達家水門」「組立燈籠」「亀井ばし」「鉄砲洲」「船住居」「佃島」

「瀬化ける」「築地橋」「氷店」「紫陽花の垣」「作者」

その他 「おしろ酒」(口絵)「ボートレース」(口絵)『愛らしき少年と少女』(袋装丁)